



拠点名 | 関西大学佐治スタジオ

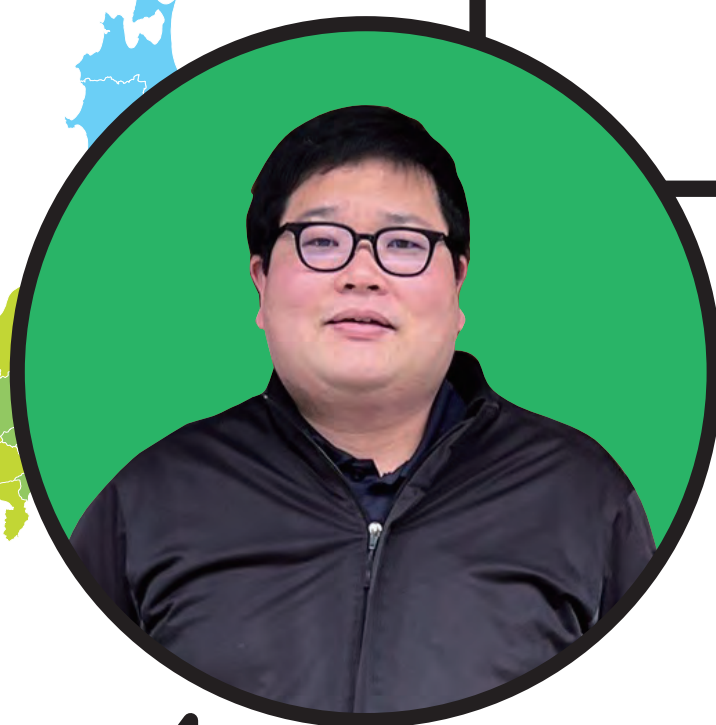
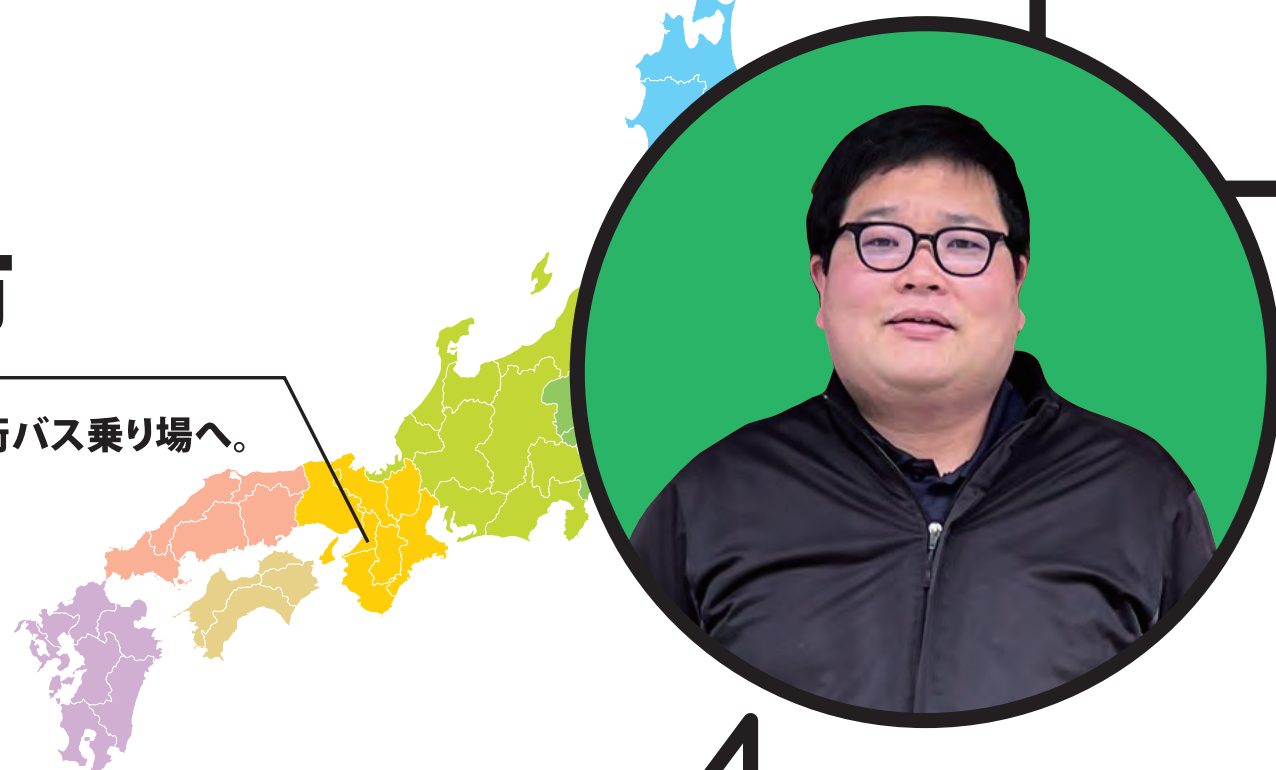
事務局：関西大学佐治スタジオ
〒669-3811 兵庫県丹波市青垣町佐治683
✉ saji.club@gmail.com



関大と地域連携の先駆けとなった佐治スタジオは、「関わり続ける定住のカタチ」をコンセプトに、2007年の連携協定締結以降、継続的に開かれています。拠点を運営するのは、関大OB・OGはもちろん、佐治スタジオスタッフと住民からなるNPO法人佐治倶楽部。その事務局長で、自身も一回生から丹波市に関わりはじめた植地さんに、佐治スタジオの魅力を教えていただきました。

兵庫県丹波市

阪急関大前駅から梅田経由で、三番街バス乗り場へ。
全但バス湯村温泉行きに乗り換えて、
青垣IC下車徒歩から15分。



植地 惇
Makoto Ueji

1990年生まれ。三重県出身。1回生のときに「ワークキャンプ(丹波)」への参加で初めて丹波を訪れ、その後も「ATACOM」参加や長期休暇に1人丹波を訪れるなどして、拠点の活動に深く関わるように。修士論文も佐治を題材に執筆した。大学院卒業を機に佐治へ移住。趣味は料理で、サジイチなどでは得意のスパイスカレーを振る舞う。

長年培ってきた“関わり続ける定住”のネットワーク。 長く関わることで広がる卒業後の選択肢

Field



過疎地域に指定される 中山間地域にある旧宿場町の街道

佐治スタジオがあるのは、兵庫県の中東部、青垣町(現丹波市)の中心部。諸説ありますが、昔は宿場町で、大阪や京都から、豊岡や鳥取などの日本海側に抜ける道として非常に栄えていたそうです。妻入りの町屋や、通りに面して間口の広い建物など、その街並みからは栄華の名残を感じられます。現在は農業や林業が盛んで、特に佐治には職人さんが多く住まれています。DIYをするときは必ず地元の製材所で木材を購入するので、職人さんと交流する機会もあります。生産者との距離の近さは、地域ならではの体験です。

Point 1. 2007年から「関わり続ける定住」を目指し 地域拠点で単位が取れるよ!

佐治倶楽部では、「ワークキャンプ(丹波)」と「ATACOM」などの、丹波を舞台とした大学連携事業の運営を行っています。コンセプトは「関わり続ける定住のカタチ」。丹波に関わった学生が卒業後も、物理的にも心理的にも丹波に関わり続けられる関係づくりを目指しています。ワークキャンプは授業なので、もちろん単位ももらえますよ。設立から2022年で15周年を迎え、今まで拠点に関わった学生はおそらく累計1000人以上。学部1回生から関われるので、OBOGとの交流などから大学卒業後の道が切り開かれることもあるかもしれません。実際、僕は授業参加をきっかけに学部1回生から丹波に関わり始め、こうして卒業後も関わっています。



Point 2. 佐治・青垣らしい景観を大切にしたい。 空き家活用で、佐治の暮らしを豊かに

佐治倶楽部のもう1つの活動軸が空き家活用です。佐治スタジオの他に、「衣川會館」「本町の家」「センバヤ」そして、佐治青垣暮らしの体験宿泊施設の「竹岡邸」など、佐治倶楽部で改修した5つの空き家を用途別に運営しています。これらのスペースは、チャレンジジョブとして利用してもらったり、高校生のまちづくり活動の拠点になったり、OBOG

や地域の方がお酒を交えながら交流する場所になったりと、佐治の景観づくりと暮らしを豊かにするお手伝いをしています。他にもさまざまなプロジェクトがあるので、興味のあるところからまずは関わってもらえたらと思います。



GO! 関西大学佐治スタジオへ行きたい!

キーワードは、農業、林業、地域再生やまちづくり。

これらに興味がある学生さん、まずは以下のプロジェクトから、丹波に関わってみませんか?

SAJI PROJECT

滞在交流型ワークキャンプ

丹波市内の事業所で就業体験をする単位認定授業。僕の場合、農家での就業体験の場合、合鴨農法や稲刈りを体験しました。学部1回生から参加可能。

ATACOM

隣町で開催される愛宕祭りに向けて、造り物という巨大奉納物(インスタレーション)を作るプロジェクト。途中、合宿もあり、和気あいあいとのづくりを楽しめる。学部1回生から参加可能。